

2026年8月25日

**日本ゼオン、単層カーボンナノチューブの新プラント建設に着手
既存プラントと同規模の建屋を新設・生産能力を数十倍に拡大**

日本ゼオン株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長兼CEO：豊嶋 哲也 以下、ゼオン）は、徳山工場（山口県周南市、工場長：本間 彰）において生産する単層カーボンナノチューブ（以下、SWCNT）の新プラントの建設に着手しました。2028 年中の本格稼働開始を目指す新プラント完工後の生産能力は、現行比数十倍に拡大する見込みで、主にリチウムイオン電池向けに需要が拡大するSWCNT市場におけるゼオンのプレゼンス向上を図るとともに、安定供給体制の強化を図ります。

なお、本件は経済産業省から「蓄電池に係る供給確保計画」として認定を受けております。

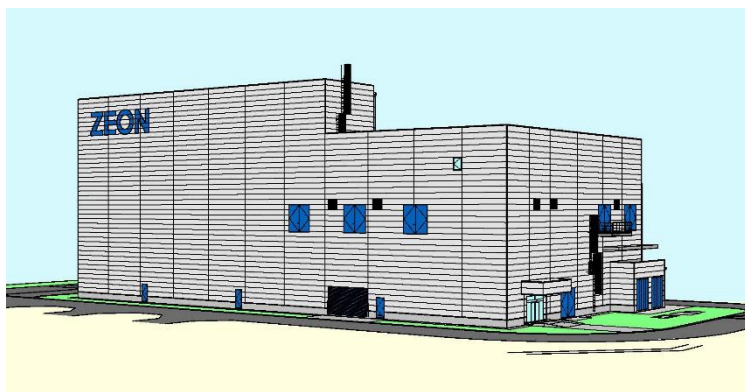
2026年8月25日に現地で行われた起工式には、経済産業省、山口県および周南市からご来賓をお招きしたほか、工事関係者および豊嶋、本間をはじめとするゼオン関係者ら44名が出席し、工事の安全祈願を行いました。

カーボンナノチューブは、高い導電性や軽量といった特長を有し、さまざまな用途への利用が期待されている日本発の材料です。なかでもSWCNTは、電池のエネルギー密度とサイクル寿命を大幅に向上させる材料として需要が高まっており、電気自動車、ドローン、eVTOL 航空機などの民生用途だけでなく、AI サーバーBBU、再生可能エネルギー ESS、自動化ロボティクスなどの産業分野においても需要が急増するリチウムイオン電池への活用の期待が高い注目材料です。なおゼオンは、2015年に世界で初めて独自のスーパーグロース法を用いたSWCNTの量産に成功し、「高純度」「高比表面積」「高アスペクト比」を特長とする SWCNTを「ZEONANO®」のブランドで製造・販売しています。

今回建設するプラントは、既存プラントと同規模で新たに建屋を建設するもので、これまでのスーパーグロース法をベースにさらに進化させた独自製法を導入します。これにより、同規模の設備ながら、生産量の大幅アップが可能となり、さらなる生産効率化、品質向上を図ります。



神事の様子



新プラント完成予想図

ゼオンは、中期経営計画STAGE30 においてSWCNTを次期成長ドライバに位置づけ、対象市場CAGRを上回る成長を目指しており、今後も市場ニーズを捉え社会の期待に応えるとともに、人々の快適な暮らしに貢献してまいります。

参考：2026 年 4 月 24 日プレスリリース

[日本ゼオン、単層カーボンナノチューブの増産を決定 リチウムイオン電池向け需要拡大に対応、2028 年に本格稼働開始予定](#)

以上

本件に関するお問い合わせ先：日本ゼオン株式会社 経営企画統括部門 広報室

電話：03-3216-2747 お問い合わせフォームは[こちら](#)